



大阪対がん協会報

2022年 6 月号

公益財団法人 大阪対がん協会

〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

大阪国際がんセンター 患者交流棟 2F

TEL 06-7777-3565 FAX 06-6585-0353

E-mail: office@osakacancer.jp HP: <http://www.osakacancer.jp>

がん研究助成奨励金

今回も若手研究者・医療従事者 13人に贈呈

大阪対がん協会（会長＝松浦成昭・大阪国際がんセンター総長）は令和4年3月、2021年度がん研究助成奨励金の贈呈を行い、大阪国際がんセンター研究所研究員の大川祐樹さんら13人に奨励金30万円、合計390万円を贈呈しました。

がん研究助成奨励金は、がんの予防と治療に役立つ研究や取り組みに従事している個人やグループを助成・奨励するもので、今回が62回目。若手育成を目的とし、応募資格は「基礎」「臨床」「疫学」は満40歳未満、「看護等」は満45歳未満の研究者・医療従事者に限っています。2021年度は41人から研究計画の応募がありました。選考委員13人の審査結果をもとに、2月17日に開かれた選考委員会（委員長＝松浦成昭・協会長）で受賞者13人を選びました。受賞者は今回で延べ1760人、研究助成奨励金の総額は4億2010万円になっています。

なお、例年は贈呈式を開催しているのですが、今回も昨年と同じく新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、贈呈式の開催は行われなかった。

（受賞者は2ページに掲載）

コロナ禍でも受けようがん検診！

- ・コロナ禍でがん検診や人間ドック等が中止される等で、受診機会を逃した方も多いと思いますが、早期がんは無症状であることがほとんどです。早期発見のためには症状がなくても定期的に検査を受けましょう。

2022年度がん研究助成奨励金 受賞者

【基礎の部】

(部門別、50音順)

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
オオカワ ユウキ 大川 祐樹	大阪国際がんセンター 研究所 研究員	分解酵素を用いたがん細胞のGlycocalyx除去による放射線治療効果の増強の試み	2
コボリ タクロウ 小堀 宅郎	大阪大谷大学 薬学部 臨床薬理学講座 助教	免疫チェックポイント分子PD-L1の足場を標的とする新規子宮がん複合免疫療法の開発	1
タナカ ノリタカ 田中 伯享	関西医科大学附属生命医学研究所 がん生物学部門 助教	腫瘍浸潤IL-10産生抑制性B細胞の新規分化機構の解明	1
ナカムラ ナツホ 中村奈津穂	大阪医科薬科大学 産婦人科学教室 助教	子宮内膜症性卵巣嚢胞および子宮内膜症関連卵巣癌のmiR-486-5pの機能解析	1
ヒロセ カツシ 廣瀬 勝俊	大阪大学大学院 歯学研究科 口腔病理学教室 助教	線維性骨異形成症における創薬シーズの探索	1
フジタ ユリカ 藤田侑里香	大阪大学 蛋白質研究所 助教	相同組換え修復が担う発がん防御メカニズムの解明	1
ヤマモト タケヒト 山本 健人	田附興風会 医学研究所 北野病院 消化器外科・腫瘍研究部	大腸癌幹細胞を用いた新規分子標的治療薬の感受性予測バイオマーカーの開発	1

【臨床の部】

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
イナガキ ユウジ 稲垣 雄士	近畿中央呼吸器センター 内科 医師	気管支肺胞洗浄液中の石綿小体濃度測定症例のコホート研究:肺がん、胸膜病変、石綿肺と石綿小体濃度	1
サカグチ タツマ 坂口 達馬	田附興風会 医学研究所 北野病院 緩和ケア科 副部長	高度がん疼痛への持続皮下注タイトレーション法におけるヒドロモルフォンとフェンタニルのランダム化比較試験	1
タケシタ ジュンペイ 竹下 純平	関西電力医学研究所 臨床腫瘍研究部 上級特別研究員	クローン性造血が固形腫瘍の薬物療法に与える影響	1
タナカ ヒデノリ 田中 秀憲	大阪大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 特任助教	デジタルPCRを駆使したHPV関連扁桃前がん病変の同定	1

【疫学の部】

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
オオタ マサト 太田 将仁	大阪医科薬科大学 一般・消化器外科 レジデント	住民ベースのがん登録資料による大腸がんの治療と生存率の変遷	1

【看護等の部】

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
ミズサワ ヒロキ 水澤 裕貴	近畿大学病院 リハビリテーション部 理学療法士	食道癌患者における術前吸気筋トレーニングの有用性に関する研究ーランダム化比較試験ー	1

がん医療 展望 vol.15

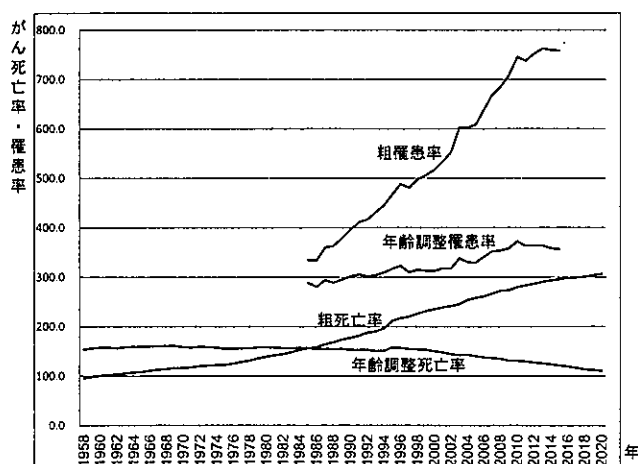
大阪のがん状況のさらなる改善をめざして

がんは1981年から我が国の死亡原因第1位で、毎年約100万人ががんにかかり、38万人ががんで亡くなっています。図1に示すようにがんで亡くなる人は増加の一途をたどっていますが、年齢調整死亡率（年齢割合を補正して高齢化の要素を除いた死亡率）は徐々に下がっています。一方、がんにかかる割合（罹患率）の増加は死亡率よりも顕著であり、年齢調整しても増えていたのですが、2010年からようやく減少に転じ始めました。すなわち、高齢化がなければ、がん医療の向上やがん対策の成果で、がん死亡は着実に下がっているのですが、実際は高齢化のために死亡者が増えていること、がん罹患は高齢化だけでなくほかの要因もあり著増してきたが、年齢の因子を除くとやっと減り始めたということが言えます。

では大阪のがんの状況はどうでしょうか？一言で言うと、大阪は全国で最悪だったのが、めざましく改善してきています。都道府県別の年齢調整したがん死亡率を見ると、大阪府は1993年から2003年までずっと全国で最も悪かったのですが、2004年から青森県を抜いて、その後改善してきました。今も全国平均よりも悪いのですが、改善率でみると全国でNo.1であり、長年にわたる様々ながん対策の取組みが奏功していると評価できます。

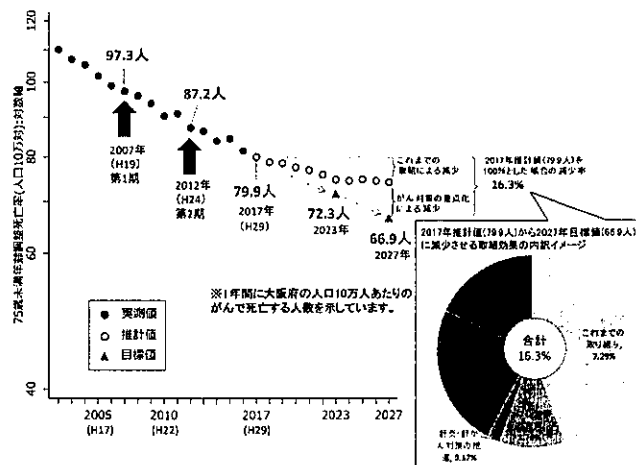
なぜ大阪府でがん死亡が多いのでしょうか。たばこ・食生活を初めとする色々な生活習慣が悪いこと、自営業者・中小企業が多いため検診率が低く、健康管理も悪いことが指摘されてきました。また、大阪府では肺がん、肝がんが多く、この2つはがん全体の中でも予後が悪いことも大阪府のがん死亡率が高いことに関係していると考えられています。

図1 我が国のがん死亡率・罹患率の年次推移



我が国の人口10万人当たりの死亡数（粗死亡率）は増加の一途をたどっているが、年齢調整すると（高齢化がないとすると）死亡率は徐々に減っている。罹患率の増加はさらに顕著で、年齢調整しても増えていたが、2010年をピークに減少しだしている。

図2 大阪府のがん死亡率減少の目標



大阪府第3期がん対策推進計画では、年齢調整がん死亡率を10年間で16.3%減少する目標を立てている。これまでの取組みによる7.3%の減少率に加えて、たばこ対策の充実、肝炎・肝がん対策の推進、がん検診の充実、がん医療の均てん化で合計16.3%の減少を目標にしている。

それでは今後、どのようにしてがんで死亡する人を減らしたらいいのでしょうか？大阪府では第3期がん対策推進計画で、がん年齢調整死亡率を6年の間に、人口10万人当たり79.9人(2017年)から72.3人(2023年)、10年後には66.9人と大幅な減少を目指しています(図2)。先に述べたように改善率で見る限り大阪府の対策は功を奏してきており、現在の対策を続けるだけでも7.3%減少と試算されますが、さらに減少率をアップして16.3%減を目標にしています。詳細に見ると、まずがん予防としてたばこ対策の充実で1.8%減少、肝炎・肝がん対策で0.4%の減少を見込みます。がん検診では大阪府は長年全国最下位でしたが、改善傾向にあり、がん検診受診率50%、精検受診率90%を目標にがん死亡率4.0%の減少をめざします。また、がん医療均てん化により集学的治療が必要な進行がん(ステージII/III)の生存率を向上させる取組みを行うことでがん死亡率3.0%の減少を見込みます。来年が第3期計画の最終年度ですが、おおむね順調に行っているようで、結果が期待できます。がん医療均てん化は医療体制の問題ですが、がん予防、がん検診には大阪府民の意識改革も必要ですので、大阪対がん協会からも広報に務めたいと思います。

(会長 松浦 成昭)

会員のみなさま**賛助会員継続・会費お振り込みのお願い**

平素より大阪対がん協会の活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

今後ともがん征圧活動にご理解をいただき、2022年度(令和4年度)も賛助会費のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

同封の払込取扱票をご利用ください。なお、振り込み手数料につきましては、誠に恐縮ではございますが、ご負担をお願いいたします。

大阪対がん協会は従来からの公益目的事業であるがん征圧運動に取り組んでいるとともに、がん患者さんの支援については、令和4年度はさらに強化を図り、よりご期待に添えますよう取り組んでまいりたいと思いますので、引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

時節柄、皆様におかれましてはご自愛いただきますようお願い申し上げます。

▷子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券のプレゼントキャンペーン◁

日本対がん協会からの子宮頸がん検診・乳がん検診の無料クーポン券のプレゼントキャンペーンです。

ご希望の方は、下記URL又はQRコードでお申し込み下さい。発行枚数は各50名様となっておりますので、ご希望の方は早期にお申し込み下さい。

キャンペーン申し込みは、2022年6月16日～2022年7月29日

検診実施予約日は、2022年9月30日までとなっております。

■申込フォーマット**【子宮頸がん検診】**

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdlfk2letikb&27364_13138047_1=1&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events202214

QRコード

**【乳がん検診】**

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdlfk2letikb&27364_13138047_1=2&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events202215

QRコード

